

# FUJIKURA NEWS 4

2020 No.465

Fujikura Modern history -1

## 新たな時代へ

昭和34年に東京オリンピックの開催が決定し、中継のためにアメリカAT&Tとの太平洋海底ケーブル計画をはじめ、長距離ケーブルの製造・敷設が活発化する。

競技場や高速道路の建設も始まり、東海道新幹線の建設に伴う通信線・ケーブル敷設で、当社は「新横浜～平塚」間を受け持った。国鉄の「自動列車制御装置(ATC)」に採用されるなど、今に繋がる多くの新技術が誕生した。

東海道新幹線OFケーブル布設工事(昭和39年)



エレクトロニクス

## スマートフォン用Board to Boardコネクタ FB35ABシリーズ



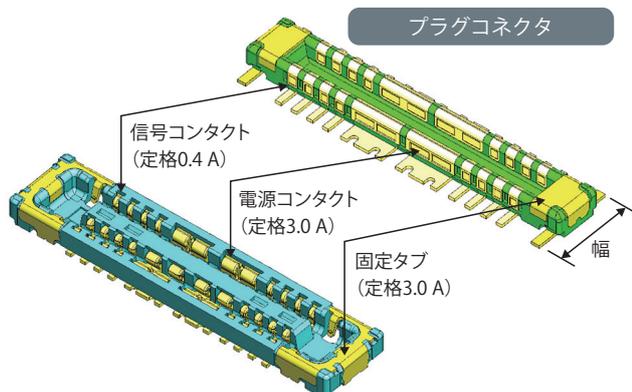
2020 4

スマートフォンやモバイル機器は、高機能化が絶えず進んでおり、コネクタにおいては高電流化・小型化・軽量化が求められております。

当社はこの要求に対し、両端に電源用固定タブを設けたBoard to Boardコネクタ/FB35シリーズを商品化することで、お客様から好評を博しております。そして今回、更なる

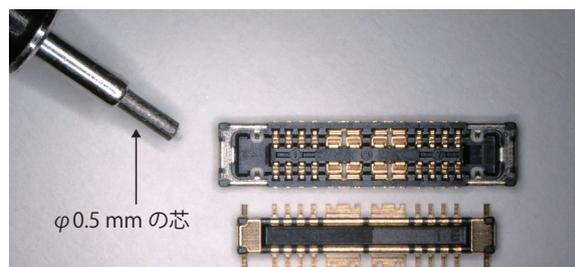
大電流化・小型化を追求し、嵌合高さ0.6mm、幅1.8mmの大電流用小型Board to Boardコネクタを開発しました。定格電流0.4Aの信号コンタクトに加え、3Aの固定タブ2端子、さらには3Aの電源コンタクト4端子を配置(図1)しております。

なお、固定タブは高電流対応だけでなく、コネクタを補強する役割も備えており、嵌合時の破損を防止します。



レセプタクルコネクタ

● 図1:コネクタ外観図



● 図2:外観

● 表1:仕様

|        | 現行品   | 新製品  |
|--------|---|--|
| シリーズ   | FB35AA                                      | FB35AB   |
| 嵌合高さ   | 0.8mm                                       | 0.6 mm   |
| 幅      | 1.8mm                                       |  |
| 定格電圧   | AC 30 V (r.m.s.) / DC 30 V                  |  |
| 定格電流   | 信号コンタクト : 0.4 A / pin<br>固定タブ : 3.0 A / pin | 信号コンタクト : 0.4 A / pin<br>電源コンタクト : 3.0 A / pin<br>固定タブ : 3.0 A / pin |
| 耐電圧    | AC 200 V (r.m.s.) / 1分間                     |  |
| 絶縁抵抗   | DC 200V 100MΩ以上                             |  |
| 接触抵抗   | 信号コンタクト : 30 mΩ以下<br>固定タブ : 20 mΩ以下         | 信号コンタクト : 30 mΩ以下<br>電源コンタクト : 20 mΩ以下<br>固定タブ : 20 mΩ以下             |
| 使用温度範囲 | -40 °C ~ +85 °C                             |  |
| 芯数     | 信号コンタクト : 18<br>固定タブ : 2                    | 信号コンタクト : 16<br>電源コンタクト : 4<br>固定タブ : 2                              |

✉ コネクタ開発一部

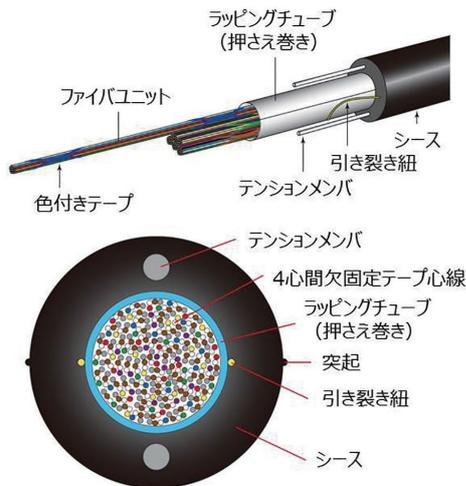
ddk.contact@jp.fujikura.com

エネルギー  
情報通信

## 細径高密度型スロットレス光ファイバケーブル 国土交通省NETIS (新技術情報提供システム) に登録



SWR®/WTC®を採用した、細径高密度型スロットレス光ファイバケーブルが、昨年12月に国土交通省 新技術情報提供システム (NETIS: New Technology Information System) に登録されました。(NETIS登録番号:KT-190087-A)



●300心 光ファイバケーブル断面図

NETISは、国土交通省が新技術の活用のため、それらに関する情報の共有及び提供を目的として整備したデータベースシステムで審査を通過した技術のみが登録されます。

当社の細径高密度型スロットレス光ファイバケーブルは、

- ①細径・軽量であるため延線作業が容易になる。
- ②細径・軽量であり曲げ半径が小さくなるので施工性が向上する。
- ③既設管路や架空敷設でより多心の敷設が可能になる。
- ④架空敷設で共架柱への負荷が軽減され周辺環境への影響低減が図れる。

などの効果が期待されます。

光ケーブルシステム事業部 [telcon@jp.fujikura.com](mailto:telcon@jp.fujikura.com)

お知らせ

## テレビ東京系列「知られざるガリバー ～エクセレントカンパニーファイル～」にて紹介



当社は2020年2月29日(土) 18:00～18:30放送のテレビ東京系列「知られざるガリバー～エクセレントカンパニーファイル～」で紹介されました。同番組は日本の世界に誇る知る人ぞ知る優れた企業にスポットを当て、その魅力を紹介する番組です。

放送では現役の大学生レポーターが当社社長の伊藤にインタビューする形式で会社、歴史の紹介に始まり、当社の光ファイバ融着接続機を使用した光ファイバの住宅への引き込み工事の様子や、佐倉事業所での光ファイバの製造現場やミリ波モジュールの開発などの取り組みが紹介されました。

縁の下の力持ちとして、インフラや電子部品など日頃はな

かなか目にする事の出来ない当社の技術を知っていただく良い機会になりました。今後も“つなぐ”テクノロジーで社会に貢献してゆきます。



コーポレートコミュニケーション部 [www.admin@jp.fujikura.com](http://www.admin@jp.fujikura.com)

お知らせ

## 空飛ぶ車コンテストで優秀賞



フジクラグループが技術支援している、東京大学発スタートアップ企業テトラ・アビエーション株式会社(以下、テトラ社)を中心とするプロジェクトチームが、1人乗りエア・モビリティの開発コンテストGoFlyで、優秀賞であるPratt&Whitney Disruptive Awardと賞金\$100,000を獲得しました。GoFlyはボーイング社がグランドスポンサーを務める、いわゆる空飛ぶクルマコンテストであり、世界103か国855チームが参加し、その中から選ばれた24チームがシリコンバレーで行われた最終飛行審査に進出しました。アジア地域から唯一最終審査に進出したテトラチームは、開発した垂直離着陸航空機テトラ3で飛行し、見事栄冠を勝ち取りました。

機体軽量化の要望に対して、フジクラは主要配線部のケーブル・コネクタのサイズダウン検討、藤倉コンポジットはシャフト部のCFRP化\*などを通して、テトラ3の開発を支援してきました。今後、テトラ社との連携などを通じ、当社の2030年のビジョンにおいて描く、人が安全かつ自由に移

動するモビリティ社会の実現に向けた商品、サービスの開発、事業化を進めて参ります。

※CFRP・・・炭素繊維強化プラスチック



● 垂直離着陸航空機  
テトラ3の機体



● テトラチーム

✉ 新規事業推進センター [ask-bridge@jp.fujikura.com](mailto:ask-bridge@jp.fujikura.com)

お知らせ

## フジクラグループ統合報告書2019を発行

当社は、「フジクラグループ統合報告書2019」(日本語・英語)を公開いたしました。統合報告書とは、当社グループのビジネスモデルや財務情報、およびESG(環境・社会・ガバナンス)活動を取りまとめたものであり、株主・投資家やお客様をはじめとした全てのステークホルダーの皆様に、中長期的な価値創造ストーリーをご理解いただくために作成したものです。

今回の報告書では、当社が創業時から現在まで受け継いでいる社会課題解決型製品の提供の歴史や当社グループの3つの競争優位性を解説したページを掲載しました。また、ステークホルダーの皆様にフジクラグループをさらにご理解

いただくために、製造現場を取り上げた「CSVストーリー」や社外取締役のコミットメントを明記した「企業価値向上に向けた社外取締役メッセージ」を初めて掲載しました。今後もフジクラグループの持続的な成長と社会課題の解決に向けた取り組みにご期待ください。

### フジクラグループ統合報告書2019

● 日本語版URL:  
<https://www.fujikura.co.jp/esg/index.html>

● 英語版URL:  
<https://www.fujikura.co.jp/eng/esg/index.html>

✉ コーポレートコミュニケーション部 [fjk.csr@jp.fujikura.com](mailto:fjk.csr@jp.fujikura.com)

お知らせ

## 必然の“森”の誕生

### ～ビオガーデン「フジクラ 木場千年の森」命名の由来について～

幾つかの辞書によれば「森」とは、「①樹木が密に茂っている所②神社のある木立」の解釈に集約されています。①に関しては、実際には樹木の粗密だけでなく樹林地の規模も大きな判断要素と思われますが、規模の線引きは判然としません。

「森」と表現される背景は、樹林地の広さ・樹木の成熟度に加えて、感覚的表現では、「畏怖の念を感じる」「生き物の濃い気配がする」も含まれると考えます。神社周辺の樹林地は、例え狭くても疎であっても神の存在で精神性が高まり森に昇華する理屈です。

森の規模は大きい程、自然度が維持され諸生物の収容能力も高まります。皇居は約115ha、目黒の自然教育園は約20ha、明治神宮は約70haで、これが東京の代表的な森と言われる事例であり規模には自ずと限界があります。「フジクラ 木場千年の森」は、約0.2haしかなく、神社がある訳でもありません。これらの点では、「森」の名には値しません。しかし、「森」を企業の姿勢を表す重要なキーワードとして

捉え、木場の地の再開発の象徴として、自然度の高い空間を設けて人々の精神的支えとして、世界の変化を受け止める場所として開放・提供したいとの思いを具現化させて誕生したのが「フジクラ 木場千年の森」です。

通称のビオガーデンには、生物の生息を主体とする「ビオトープ」と、人間の利用を主体とする「ガーデン」を並立したいとの思いが込められており、「千年の森」には、企業と地域との親密な関係を末永く木場の地に継続する強い気持ちが込められています。

全ての森は、いきなり森にはなっていません。「フジクラ 木場千年の森」も、いつの時も地域や人々の、そして全ての生物の「森」であって欲しいと願っています。

※この記事は、雑誌「都市公園228号(2020年3月)」の寄稿内容を抜粋編集したものです。



● 森の小川



● 森の一隅



● ビオガーデン俯瞰写真



● ビオガーデン地図

✉ コーポレートコミュニケーション部 [fjk.csr@jp.fujikura.com](mailto:fjk.csr@jp.fujikura.com)

**Fujikura** 株式会社フジクラ Fujikura Ltd.

“つなぐ”テクノロジー 製品ニュース No.465  
発行:2020年4月 編集兼発行責任者:森本 朋治  
〒135-8512 東京都江東区木場1-5-1  
<http://www.fujikura.co.jp>

営業企画部 TEL:03-5606-1092  
関西支店 TEL:06-6364-0373  
中部支店 TEL:052-212-1880  
東北ブロック TEL:022-266-3344  
九州ブロック TEL:092-291-6126

